

① オープンデータの取組強化

- ICTによるG空間情報の利活用の高度化には、オープンデータ、リアルタイム位置情報による安全支援、海外展開がポイント。
- G空間情報の流通基盤の強化が必要。データは発生しているが、流通や利用の基盤が弱い。オープンデータの中で具体的かつ生活に密着した情報と位置付けて、オープン化による生活へのインパクトの例を示すべき。
- 行政機関の地理空間情報は紙のものが多い。民間で二次利用できるオープンデータを促進し、住居表示台帳や地番現況図等人の住所や建物を示す情報の流通基盤整備が重要。
- 個人情報や通信の秘密等について、二次利用のニーズ等を踏まえつつ、多角的、多面的な議論が必要。

② 新産業・新サービスの創出の推進

- 「高精度G空間＋途切れない無線通信＋ビッグデータ解析」の組み合わせにより、安全運転支援や見守りのような安全・安心に繋がるサービス、先読み運転支援のような便利で気の利いたサービスが創出可能。
- 快適で上質な生活(電気自動車用急速充電器ナビゲーションシステム安否確認システム等)、自治体における「要援護者(高齢者・障がい者等)」の居住マップに利用を期待。

③ 防災・減災、地域活性化等の推進

- 正確な災害時ハザードマップの作成や、災害情報の場所に応じたきめ細かな提供に利活用することを期待。
- 防災等で異なる主体の情報を繋ぎあわせるためには、公開する情報の項目やデータ形式をあらかじめ決めておくことが必要。

第1回G空間×ICT推進会議における主な意見等②

④ 3次元地図の整備等GISの充実

- 標高や施設の高さも含む民間の整備データを活用し、あらかじめ、自治体がビル等の所有者が災害時の避難場所等として活用できるように調整しておくことが重要。その結果を地図上に示すことができれば防災・減災の高度化も可能。
- センシング技術の発展で高精度でリアルな3次元モデルの構築が可能。
- 地図の更新義務化を含めて、自治体におけるGISの取り組みを推進してほしい。

⑤ 高精度な測位情報を利用した新たな空間の実現(屋内外のシームレスな測位環境の開発)

- 実世界そのものが1/1の実物大の地図という観点が重要。センサーからの情報を位置情報と結びつけたものが基盤として提供されており、それをアプリケーションとして、効率良く、低コストで利用できることが重要。
- 車が走りながら3センチぐらいの精度が出るとか、又は携帯に小さなチップがあるとリアルタイムで1メートル以内の精度の測位が可能であり、これらを利用した様々なアプリケーションの開発が可能。

⑥ その他

- G空間情報の収集・更新にはコストがかかる。政府や自治体のみならず、ボランティアも含めて官民で負担をシェアする制度が必要。
- G空間とICTに関する人材の育成が最重要。また、世界をリードする先端技術の育成を組織的に行うことが必要。